

各小委員会の報告

産業構造審議会 第21回知的財産分科会

令和8年5月14日

1

特許制度小委員会
意匠制度小委員会
商標制度小委員会

- 特許制度小委員会の開催実績（令和7年度）
- 意匠制度小委員会の開催実績（令和7年度）
- 商標制度小委員会の開催実績（令和7年度）

2

審査品質管理小委員会

- 審査品質管理小委員会の開催実績（令和7年度）

3

財政点検小委員会

- 財政点検小委員会の開催実績（令和7年度）
- 歳出歳入、剰余金の推移

**1. 特許制度小委員会・意匠制度小委員会・
商標制度小委員会の報告**

特許制度小委員会の開催実績（令和7年度）

- ▶ 特許制度小委員会では、令和7年4月から令和7年11月にかけて計3回の審議を行った。

第53回 令和7年4月22日

1. AI技術の発達を踏まえた特許制度上の適切な対応について
2. 知的財産の侵害抑止へ向けた取組について
3. 国際的な事業活動におけるネットワーク関連発明等の適切な権利保護について

第54回 令和7年6月4日

1. これまでの議論の整理について
2. AI技術の発達を踏まえた特許制度上の適切な対応について
3. 国際的な事業活動におけるネットワーク関連発明等の適切な権利保護について

第55回 令和7年11月28日

1. 国際的な事業活動におけるネットワーク関連発明等の適切な権利保護について
2. 知的財産の侵害抑止へ向けた取組について

特許制度小委員会における主な議題

①国際的な事業活動におけるネットワーク関連発明等の適切な権利保護

- ネットワーク上における国境を跨いだ特許侵害への対応について、最高裁の判断（サーバーの場所ではなく実質的に判断すべきとして、米国にサーバーがあっても日本の特許権侵害を認めた）を踏まえ、当該事案以外の事例も含めてどのような場合に特許権が及ぶか検討し、整理・公表予定。

②AI技術の発達を踏まえた特許制度上の適切な対応

- AIの技術発展に伴い、AI技術を活用した研究開発が普及しつつあり、短時間で大量の成果物を生成することが可能となっているところ、AI技術を利用した発明に関する諸論点について検討を進めている。

③DX時代にふさわしい産業財産権手続に関する制度的措置

- ePCTによるオンライン出願・発送の導入について、PCT条約・規則類との考え方の違い等に応じて、所要の制度的措置を講ずる方向で検討を進めている。
- 国内優先権に基づく先の出願について、ユーザー実務への影響にも留意しつつ、通常の出願と同じ取扱い（国内優先権に基づくみなし取下げは廃止）へ見直す方向で検討を進めている。
- 公報におけるプライバシーの保護について、ユーザーニーズのバランスをとりつつ、個人の出願人・権利者及び発明者等の住所を概略表記とする方向で検討を進めている。

④知的財産の侵害抑止へ向けた取組

- 政府全体として知的財産の侵害抑止に取り組む中、権利を侵害された特許権者への十分な救済が難しいという課題を踏まえ、特許権侵害の実態調査等を実施するとともに、課題解決へ向けた方策の検討を開始した。 4

意匠制度小委員会の開催実績（令和7年度）

➤ 意匠制度小委員会では、令和7年4月から令和7年12月にかけて計4回の審議を行った。

第18回 令和7年4月3日

1. 仮想空間におけるデザインに関する意匠制度の在り方について
2. 公報におけるプライバシーの保護について

第19回 令和7年5月22日

1. 仮想空間におけるデザインに関する意匠制度の在り方について
2. 生成AI技術の発達を踏まえた意匠制度上の適切な対応について

第20回 令和7年6月30日

1. これまでの議論の整理について
2. 仮想空間におけるデザインに関する意匠制度の在り方について
3. 生成AI技術の発達を踏まえた意匠制度上の適切な対応について

第21回 令和7年12月15日

1. 仮想空間におけるデザインに関する意匠制度の在り方について

意匠制度小委員会における主な議題

① 仮想空間におけるデザインに関する意匠制度の在り方

- 仮想空間上の利活用を前提とした様々なビジネスが展開されつつあるところ、仮想空間におけるデザインの模倣の実態を踏まえ、現実空間のビジネス主体・仮想空間のビジネス主体双方にとっての保護と利用のバランスに配慮しつつ、意匠制度見直しの必要性及び措置の方向性について検討を進めている。

② 生成AI技術の発達を踏まえた意匠制度上の適切な対応

- 生成AIの技術発展に伴い、短時間で大量のデザインを生成・公開することが可能となっているところ、生成AI技術の発達を踏まえた諸論点について検討を進めている。

商標制度小委員会の開催実績（令和7年度）

- 商標制度小委員会では、令和7年6月に1回の審議を行った。

第12回 令和7年6月13日

1. 商標審査の現状について
2. インターネット上の国境をまたいだ商標の使用について
3. 仮想空間における商標の保護について
4. 生成AI技術の発達を踏まえた商標制度上の整理について
5. 公報におけるプライバシーの保護について

商標制度小委員会における主な議題

① インターネット上の国境をまたいだ商標の使用

- ▶ インターネット上の国境をまたいだ商標の使用に関して、裁判例やWIPO共同勧告において挙げられた要素を踏まえ、どのような場合に日本国内における商標の使用に該当するといえるか検討した。

② 仮想空間における商標の保護

- ▶ 仮想空間上の利活用を前提とした様々なビジネスが展開されつつある中で、仮想空間における商標の模倣が問題となり得るところ、仮想空間上の商品に係る商標の登録可否や、仮想空間上の商品に係る商標の使用に対する権利行使等について検討した。

③ 生成AI技術の発達を踏まえた商標制度上の整理

- ▶ 生成AIの技術発展に伴い、短時間で大量の文字・図形等を生成・利用することが可能となっているところ、生成AIを利用して作成された文字・図形等を含む商標が出願又は使用された場合や、登録商標が含まれるデータをAIに学習させる場合の現行の商標制度における考え方について検討した。

3. 審査品質管理小委員会の報告

審査品質管理小委員会の開催実績（令和7年度）

【第1回】令和8年2月20日開催

●議題1：審査品質管理の実施体制・実施状況に関する評価結果（案）について

特許・意匠・商標の審査品質管理の実施体制・実施状況に関する評価結果（案）について自由討議が行われ、了承された。

●議題2：審査品質管理の実施体制・実施状況に関する各委員の改善提案について

改善提案について自由討議が行われた。示された主な改善提案は以下の通り。

- 国際的に遜色のない人員配置を確立しているとははいえず、国際的に遜色のない水準の審査官数を確保する必要がある。
- 品質管理業務における生成AI技術等の活用方法を検討するとともに、その導入を進める必要がある。

【第2回】令和8年3月13～19日開催（書面審議）

●議題1：令和7年度審査品質管理小委員会報告書（案）について

改善提案に基づく本小委員会の改善提言を含め、報告書（案）について審議いただき了承を得た。

4. 財政点検小委員会の報告

財政点検小委員会の開催実績（令和7年度）

第10回 令和7年6月4日

議題：特許特別会計の財政運営の状況等

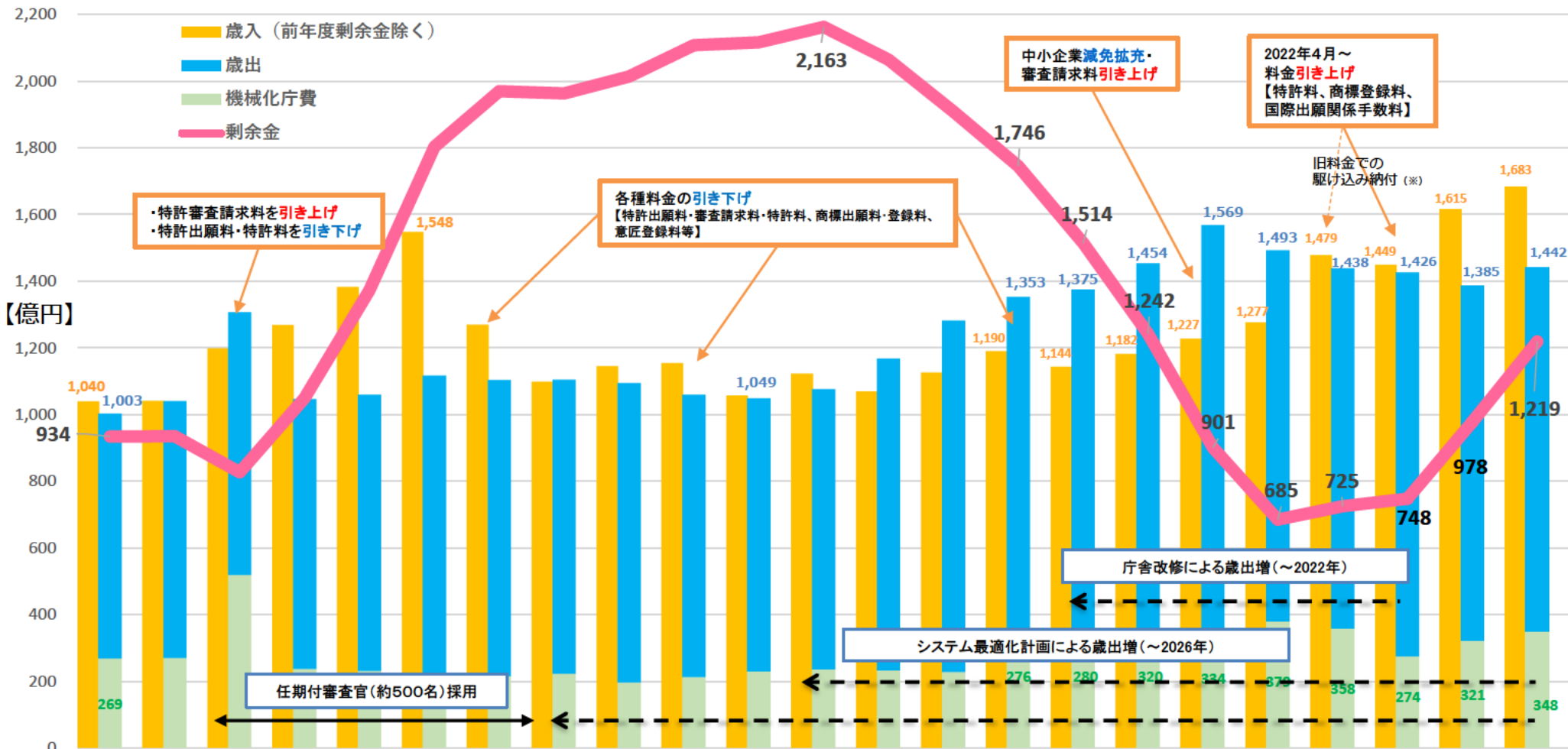
1. 令和6年度決算見通し
2. 財政シミュレーション
3. 令和8年度概算要求の方向性
4. 情報公開の在り方 等について議論

第11回 令和7年11月25日

議題：特許特別会計の財政運営の状況等

1. 令和6年度決算
2. 令和8年度概算要求
3. 財政規律の見直しについて
4. 財政シミュレーション
5. 情報公開の在り方 等について議論

歳入歳出、剰余金の推移



年度	H14fy	H15fy	H16fy	H17fy	H18fy	H19fy	H20fy	H21fy	H22fy	H23fy	H24fy	H25fy	H26fy	H27fy	H28fy	H29fy	H30fy	R1fy	R2fy	R3fy	R4fy	R5fy	R6fy
	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
歳入	1,040	1,041	1,199	1,268	1,383	1,548	1,269	1,098	1,145	1,154	1,057	1,122	1,070	1,126	1,190	1,144	1,182	1,227	1,277	1,479	1,449	1,615	1,683
歳出	1,003	1,040	1,306	1,046	1,044	1,074	1,095	1,094	1,093	1,060	1,049	1,076	1,168	1,282	1,353	1,375	1,454	1,569	1,493	1,438	1,426	1,385	1,442
PB	37	1	-108	222	324	431	166	-6	50	94	9	46	-98	-156	-163	-231	-272	-342	-216	40	23	230	241
期末剰余金	934	935	827	1,049	1,372	1,803	1,970	1,963	2,014	2,108	2,116	2,163	2,065	1,909	1,746	1,514	1,242	901	685	725	748	978	1,219
機械化庁費	269														276	280	320	334	379	358	274	321	348

※2022年4月からの料金引き上げの直前に駆け込み納付があったため、2021年度の歳入が増加し、2022年度に反動減が生じたと考えられる。